

両膝単顆型人工関節置換術後野球復帰した症例

○阿部 康兵¹⁾湯朝 友基²⁾張 敬範²⁾江本 玄²⁾

1) 江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2) 江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

【はじめに】

単顆型人工膝関節置換術(以下 UKA)後、日本は欧米諸国と比べスポーツ活動を行う患者は少ない傾向にある。今回、当院にて両膝 UKA を施行し、野球復帰した症例を報告する。

【症例紹介】

77歳、男性。主訴：両膝痛

職業：林業、元某町長

運動習慣：週3回野球 投手／一塁手

週2回ジョギング

【病歴】

H15年：左膝痛出現し、保存療法にて疼痛消失。

H21年6月：右膝痛出現、野球困難となる。

H21年7月：右 UKA 施行。

H24年11月：左膝痛増悪。

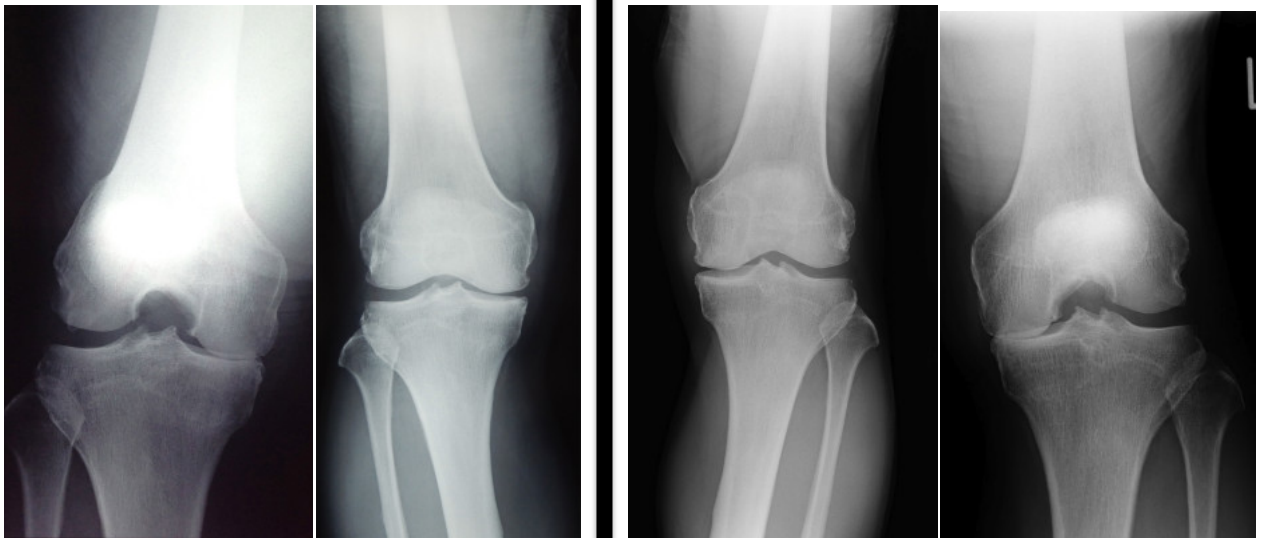
H25年1月：左 UKA 施行。

【理学的所見～術前～】

- ROM -5～140°/-5～140°
- swelling — / —
- heat — / —

術前に著明な可動域制限等は認められなかった。

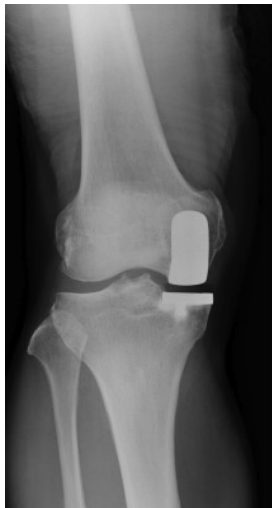
【単純 X-P(術前)】



【単純 X-P(術後)】

Rt

A-P



Lateral



Lt

A-P



Lateral



【術後経過】

H21年7月：右 UKA 施行

H22年3月(PO.10M)

実践復帰、左膝痛 (+)

H25年1月：左 UKA 施行。

H25年3月(PO.2M)

一塁守備のみ復帰

H25年4月(PO.3M)

打撃開始

ROM : $-3^{\circ} \sim 145^{\circ} / -3^{\circ} \sim 140^{\circ}$

H25年5月(PO.4M)

実践復帰

ROM : $-3^{\circ} \sim 145^{\circ} / -3^{\circ} \sim 140^{\circ}$

【理学的所見～術後～】

- ROM -3~145°/-3~145°
- swelling - / -
- heat - / -
- BMI 26.4kg/m²
- 等尺性大腿四頭筋筋力 53.9kgf / 49.8kgf

【単純 X-P】

Rt:4Y4M

A-P



Lateral



Lt:10M

A-P



Lateral



両膝ともに radiolucent line 等異常所見は認められていない。

【考察】

Healy,W.L.

- 1)全人工膝関節置換術後スポーツ活動として、バスケットボール、ジョギング、バレーボール、アメリカンフットボール、サッカーは推奨しない。
 - 2)野球はコンセンサスが得られていない。
- J Bone Joint Surg,90-A:2245-2252,2008

一方で・・・

Mont,M.A

- 1) 人工膝関節置換術後、スポーツにおける low activity group と high activity group を術後平均 7 年で追跡し、臨床成績や X 線所見に差はなかった。
Clin Ortho Relate Res,60:165-173,2007
- 2)人工膝関節置換術後 high impact sports を行っている患者の臨床・画像評価を行ったところ、術後 4 年間の成績は良好であった。
J Arthroplasty,23:80-84,2008

QOL 向上目的として再置換等のリスクを十分に説明し、同意を得た上でスポーツを行うことも選択肢の一つと考える。

Bradbury,N.

スポーツ活動により繰り返されるインパクトが磨耗や弛みになる危険性は術後短期間ではわからず、少なくとも 10 年以上経過しないと判断できない。
Am J Sports Med,26:530-535,1998

Healy,W.L

どのようなスポーツ活動がインプラントの耐久性に影響するか明らかにされていない。
J Bone Joint Surg,90-A:2245-2252,2008

人工関節術後スポーツ活動におけるコンセンサスは未だ明らかにされておらず、今後も本症例の長期的観察が必要である。

【まとめ】

- ・今回両膝 UKA 後野球復帰した症例を経験した。
- ・QOL 向上目的として、再置換等のリスクを十分に説明し、同意を得た上でスポーツを行うことも選択肢の一つと考える。
- ・人工膝関節術後、スポーツ活動における長期成績の報告は少なく、今後も経過観察が必要である。